

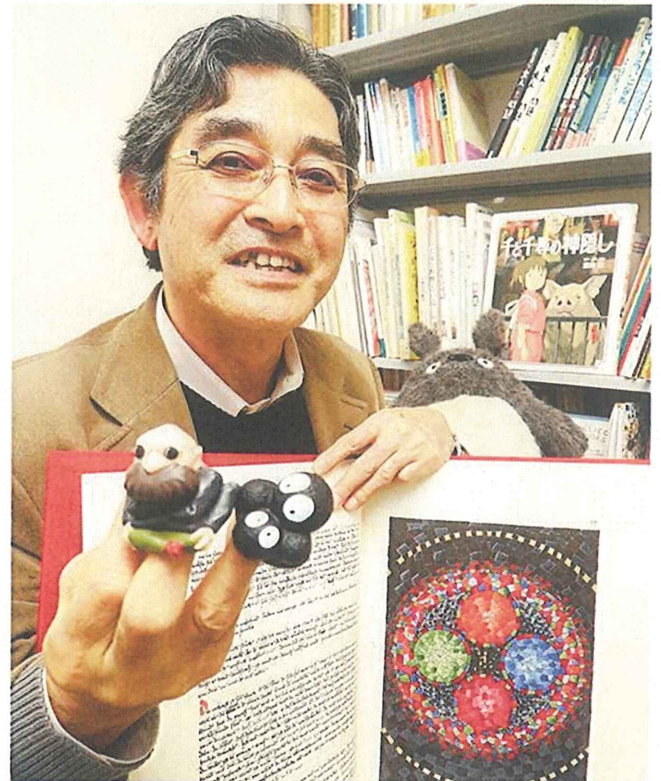
ジブリパーク基本デザインを公表へ
わたしのジブリ

③千と千尋の神隠し

愛知淑徳大教授 後藤秀爾さん

愛知淑徳大心理学部教授、後藤秀爾さん(65)は名古屋市長和区に在住の研究室には、「千と千尋の神隠し」(2001年)に登場する「釜爺」や「ススワタリ」の人形が棚に並ぶ。授業でも題材にする「千と千尋の神隠し」は、子どもたちの心を映す鏡だと感じる。

子どもものの心を映す鏡



「千と千尋の神隠し」を授業の題材にする後藤秀爾教授。研究室にはジブリの人形が並んでいる。長久手市の愛知淑徳大

さんもゼミ生七八人と映画館に足を運んだ。「面白かった」と振り返るが、心理の専門家を引き

つけたものはそれだけでは「子どもが大人に向かつて成長する物語。今の若者

にとつてそれは大きな課題。大人になるためのヒントが映画に隠されている。それまでもテレビドラマ

「東京ラブストーリー」や「ロングバケーション」を授業で取り上げた。人間関係で葛藤する登場人物の言

動を心理学的に解説する。自らの悩みと重ね合わせる学生たちには好評だった。千と千尋が公開されたころ、学生に変化を感じていた。彼らの最大の課題が「人間関係」から「大人になる」ことに変化していることに気付いた。公開から一年後、学校とその系列校で小中高生や大学生にアンケートすると、95%以上が「千と千尋の神隠しを見た」と答えた。

後藤さんは言う。「物語で豚になるお父さん、お母さんは(子どもが)両親に幻滅する心を象徴している。両親を救う行動は、愛される側から愛する側への変化。ビジネスとお金で動く湯婆婆、命と子育ての原理を体現する銭婆は、女性

「千と千尋の神隠し」2001年公開。宮崎駿・原作、脚本、監督。少女(千尋)が、通常は人間が入れない八百万(やおよろず)の神の不思議な世界に迷い込み、そこにある銭湯「油屋」で働きながら、成長していく物語。興行収入は、日本映画で歴代1位の308億円。

高校時代に精神分析学者フロイトの本に出会い、心理学を志した。授業では「興味ある題材を通じ、自分自身を理解してもらいたい」と考えている。

今、再び学生が変わりつつある気がしている。新たな時代が到来する予感でも言わうか。

「学生と母親との仲が以前よりも濃密になっていく。『豚になるのは父親だけ』という時代が来るのかもしれない」

2018年1月4日(木)中日新聞朝刊14面より
この記事は中日新聞社の承諾を得て転載しています。